

## 第2回 航空合同 WG 議事要旨

1. 日 時 : 平成24年7月26日(木) 14:00~17:00

2. 場 所 : ソリッドスクエア西館 1階第3会議室

### 3. 議事の概要

#### (1) 議題

##### ① 第1回提案内容についての結果報告

○ 事務局(センター)から、資料1に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ② 関連システム一覧

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ NACCSと外部システムとの関連図(24年7月及び25年10月)

##### ③ システムの信頼性について

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 信頼性を満たすためのシステム構成
- ・ 次期NACCSについて(システム構成・定期メンテナンス)

##### ④ バックアップセンター機能の検討

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 現状のバックアップセンター機能及び課題
- ・ バックアップセンター機能のあり方(方向性)

##### ⑤ EDI仕様について(電文形式)

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ NACCSで扱える電文

##### ⑥ IPv6への対応

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料6に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ IPv6対応の検討及び対応例

##### ⑦ 端末パッケージソフトの改善

○ 事務局(センター)から、次の事項について資料7に基づき説明の後、意見交換を行った。

- ・ 端末パッケージソフトの課題及び改善案

- ⑧ Web 業務の提供
  - 事務局（センター）から、次の事項について資料 8 に基づき説明の後、意見交換を行った。
    - ・ Web インターフェース対象業務の拡大
- ⑨ 利用者 ID 体系の見直し
  - 事務局（センター）から、資料 9 に基づき説明の後、意見交換を行った。
- ⑩ 添付業務の見直し
  - 事務局（センター）から、次の事項について資料 10 に基づき説明の後、意見交換を行った。
    - ・ 現状の添付業務について
    - ・ 添付業務の見直しの方向性及び今後の課題
- ⑪ 海上・航空貨物情報連携の考え方について
  - 事務局（センター）から、次の事項について資料 11 に基づき説明の後、意見交換を行った。
    - ・ 輸出および輸入における問題点
    - ・ 見直しの方向性
- ⑫ プログラム変更要望に対する対応について
  - 事務局（センター）から、次の事項について資料 12 に基づき説明の後、意見交換を行った。
    - ・ 輸出取止め再輸入手続きのシステム化
    - ・ 汎用申請手続きの個別業務化
    - ・ 事項登録業務・確認業務の追加
    - ・ 蔵入貨物の後続業務の可能化
    - ・ 空コンテナの仮陸揚げ対応

## (2) 意見交換の概要

- システムの信頼性について
  - 定期メンテナンスについてだが、現行においては月に 1 度の定期メンテナンスにより、2、3 時間程度のシステム停止となっているが、夜間にオペレーションを行っている業界もあることから、第 6 次においては、メンテナンスの頻度が増えてでも 1 回あたりの時間を 10 分といったように、停止時間を分散することを検討いただきたい。（委員）
  - ⇒深夜貨物便等も増加傾向にある中、24 時間対応をしていく必要性を他の意見交換の場でも提案されている。第 6 次 NACCS では、費用と技術の双方を考慮した上で、可能な限りメンテナンス時間をできるだけ短時間でできるように検討していきたいと考えている。（事務局）

○ EDI仕様について

- 弊社では、2012年9月からe-AWB化を予定しており、AWBもハウスマニユフェスト情報もデータで貰うようになる。現在は方式としてFWB、FHL情報は、EDIFACT方式での通信だが、IATAの方針では最終的にはXML方式になっていく。

この1、2年で他社もe-AWB化すると考えられるが、今後は、古いEDIFACT方式からXML方式になるのは時間の問題であり、次期NACCSが更改される前に変わってきているのではないだろうか。(委員)

⇒XML方式でのe-AWB化対応について、NACCSで対応したいということであれば、対象業務についてマッピング等の対応が必要となる。今後の動向等も踏まえ、どこまで対応すればよいか相談させて頂きたい。(事務局)

○ 端末パッケージソフトの改善

- 業務画面展開のたびにアップデートチェックを行う改善案を実現した場合、トラフィックが増え負荷がかかるのではないか。(委員)

⇒提示している改善案は必ずしもこの方式を次期で対応していくということではなく、考え方としてこのような方法に変更したい、ということであり実現の可否も含めて検討中である。アップデート方法の改善は必要であると考えており、ご指摘の内容も含めて検討していきたい。(事務局)

○ Web業務の提供

- 利用者端末側のWebブラウザの機能等は、NACCSよりも短い期間でアップデートやバージョンアップがあるため、端末側にダウンロードさせるような仕様ではなく、NACCSサーバー側で処理が完了するような仕組みにしていきたい。(委員)

⇒端末やOSの変化は考慮して対応したい。(事務局)

○ 海上・航空貨物情報連携の考え方

- 海上システムで通関された航空貨物が空港蔵置場に搬入される場合、マニュアルのLDRにED番号が記載されており、これをBIIで搬入することになるが、ここがNACCSのスタートになる。その前のシステム登録が何もないので、できれば航空会社としても搬出情報が見たいと思っており、現状では不便を感じている。(委員)

- 弊社でも同様であるが、現状としては、海上システムからの貨物が多いのは、インランドデポ等航空システムがあまり導入されていない地区であり、海上システムで通関をして搬出されている。たとえばLDR番号のようなものが海上の搬出業務で出れば、そのままデータをつないでいけるかと思う。(委員)

- 荷主としては、方向性2の案で検討を進めていただきたい。また、NACCSは一気通貫のシステムといいながら、今回のフローには ECR の前段業務である SIR 業務が入っていない。これは、SIR から ECR に情報がつながっていないということなのか。(委員)

⇒今回 SIR はどこで登場してもいいような業務にしてはどうかということで、流れの中からははずしている。スピードの求められる航空貨物において、迅速な処理を可能とするのが方向性1であり、航空貨物という種別が分かっているならば最初から ECR ではなく CDB 業務で貨物情報を登録して頂き、そこには当然 B/L 番号も載せられ、EXM を行えば LDR 番号を払いだすことができる。皆様から様々なご意見を頂き、また、海上側の利用者様からの意見もいただいたうえで、総合的に検討を進めていきたい。(事務局)

- そもそも航空システムと海上システムに分かれていることに問題あり、一つのシステムにし、Air と Sea で扱う項目をその中で業務を使い分けさせたいのではないか。(委員)

⇒海上・航空システムでは貨物の情報や処理方法が大きく異なるため、1つのシステムに統合することはかなり難しい面がある。ただ、項目の違いに関しては、詳細設計の中で検討し、変更していくことも可能かと考える。(事務局)

#### ○ プログラム変更要望に対する対応について

- 5ページの輸入マニフェスト通関申告 (MIC) の事項登録については、多くのエクスプレス貨物を通関する際に、自社システムへの影響が大きくなってしまいうことから、事項登録をせずに現行の MIC のみの仕様も残し、選択制としていただきたい。(委員)

⇒確認の為の業務を必要とする旨の要望を踏まえ検討するものであるが、事項登録業務の利用については、選択できるようにしたいと考えている。(事務局)

- 別送品申告の輸入のシステム化についてだが、前回の更改の時にも話が出たと思うが、当時別送品申告は賦課課税となるため NACCS の民間の口座から自動引き落としができない、ということでシステム化できなかったと記憶している。申告は NACCS でできたとしても、納税ができないと意味がないため、制度面も含め検討頂きたい。(委員)

⇒輸入の別送品については、申告時に関係書類の提出のため、どうしても窓口に行く必要があるため、当面の間システム化を見送った経緯があるものの、次期では、賦課課税に対しては、例えばマルチペイメントネットワークを使用し納付番号を出し、それを元に納付して頂くなど、少しでも簡素化できな

いかということも併せて検討して提案していきたいと考えている。(事務局)

⇒補足説明をさせて頂くが、掲示板にも掲載させて頂いているとおりプログラム変更に関しては多数ご要望を頂いているが、今回提案させて頂いているのは、「基本仕様の検討の段階」で必要と考えられるものをピックアップしている。当然、プログラム変更要望には、現行システムで対応すべきもの、あるいは次期システムで対応すべきものという整理が必要であり、次期で対応すべき案件は詳細仕様の検討段階で提供させて頂く予定である。また、関係省庁に係る要望については、関係省庁側と意見交換等しながら、検討していく。(事務局)

(3) 今後のスケジュール

- 第3回の航空合同 WG の開催日は9月下旬とし、決定次第委員には追って連絡することとなった

(参考) 第2回航空合同 WG の委員は別紙のとおり

以上